

いろいろたまご

ぞうのたまごのたまごやき

寺村 輝夫 作 長 新太 画 福音館書店 Eーチ

あかちゃんがうまれた王さまは、国じゅうの人たちをおしろによんで、おいわいすることにきめました。王さまがあつまった人たちにたまごやきをごちそうしたいというと、だいじんたちはたまごがたりませんといいます。すると王さまは、ぞうのたまごをもってくればよいといいました。

海のたまご

ルーシー・M・ポストン 作 猪熊 葉子 訳 岩波書店 933ーボ

トビーとジョーは、えびとりのおじさんから石をかいました。石はたまごのかたちをしていて、みどり色で、大きさはシチメンチョウのたまごぐらいです。これは海のたまごで、なにかがうまれてくるとおもったふたりは、秘密の磯だまりにおいて見つからないようにしました。

みにくいガチョウの子

ディック・キング＝スミス 作 ト部 千恵子 訳 岩波書店 933ーキ

ジャックのいちばんすきな動物は鳥です。たんじょう日には、鳥をプレゼントしてもらいます。八さいのたんじょう日に、おすとめすのガチョウがやってきました。ある日、ジャックはクラスで動物公園にいきました。子どもたちは、九つのダチョウのたまごをさわらせてもらいます。ジャックはその中のひとつを自分のふくろのなかにいれました。

魔女のたまご

マデライン・エドモンドソン 作 掛川 恭子 訳 あかね書房 933ーエ

アガサは魔女で、とりの巣にひとりっきりですんでいて、ともだちがいません。夜がくるとほうきにのって町にとんでいき、町のひとたちをこわがらせるのがアガサのしごとです。あるばん、アガサがはたらいているあいだにかあさんカッコーがやってきて、巣にたまごを一つみおとしていきました。町からかえってきたアガサは、かんかんにはらをたてました。

もりのへなそうる

わたなべ しげお さく 福音館書店 913-ワ

てつたくんとみつやくんは、もりへたんけんにてかけて、おおきなきのしたにおおきなおおきなたまごをみつけます。ふたりはだれにもみつからないように、くさやはっぱをたくさんとってきて、たまごをすっかりかくしました。てつたくんはこのたまごはもしかしたらきょうりゅうのたまごかもしれないぞとおもうと、むねがときどきしました。

たまごからうま

酒井 公子 再話 織茂 恭子 絵 偕成社 E-オ

ある日、ダーというおとこが、あるくのがくたびれるので、うまをかいにいちばにいきました。しかしうまはたかく、ダーはたくさんおかねをもっていないのでかえません。するとひとりのおとこが、あしのはやいうまのたまごがあると、ダーにこえをかけてきました。

ひよこのかずはかぞえるな

イングリとエドガー・パーリン・ドーレア さく せた ていじ やく 福音館書店 E-ド

にわとりを飼っているおばさんが、めんどりのうんだたまごをかぞえると36こありました。そこで、たまごをつめたかごをさげてまちにてかけました。しばらくいくうちに、おばさんはたまごのかずをかぞえておかねのかんじょうをはじめました。そして、たまごをうってほしいものをてにいれたいと、おばさんのゆめにひがつかしました。